

慮に入れた維持管理計画の必要性が明らかになった。

P-7

二次草原における環境保全ボランティアの参加意識において－阿蘇野焼き支援ボランティアを対象として－

牧 安奈（東京農業大学） 麻生 恵（東京農業大学） 栗田和弥（東京農業大学）

本研究が対象とする二次草原を保全するためには、人の手による維持管理が必要である。しかし近年、産業構造の変化や地域社会の変容により、二次草原を支えてきた畜産業などの人の営みが衰退し、草原面積の減少や生物多様性の低下などの問題が顕在化してきている。日本最大の草原面積をもつ阿蘇くじゅう国立公園では、地域住民や行政、専門家、ボランティアなどの多様な主体が関わって草原の保全に取り組んでいる。その中のひとつの役割を担っている、ボランティアによる草原維持管理活動は、現在の二次草原の維持管理になくてはならないほどにその必要性を高めており、この活動を持続していくためにもボランティアの人々の意識を明らかにする必要があると考える。そこで本研究では、阿蘇地方の草原維持活動に参加するボランティアを対象とし、二次草原における環境保全ボランティアの意識について明らかにすることを目的とした意識調査を行った。（393文字）

P-8

市民参加・NPOによる自然環境の保全管理の課題に関する調査研究

栗田和弥（東京農業大学）

市民参加やNPOによる自然環境の保全管理が、その活動の必要性和共に実効性が社会的に認められるようになり、今後も担い手としての役割が重要視されるといえよう。しかし、自然環境そのものに対する効果や活動の継続性の確保な未知の点も多い。そこで本論は、活動対象としての自然環境（フィールド）と、市民参加やNPO等の活動主体に着目し、それぞれの課題を明らかにすることを目的とした。まず、文献調査（日本造園学会誌・環境情報科学論文集など）に掲載された論文に基づいてレビュー